

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	浜松市根洗学園		
○保護者評価実施期間	令和7年10月17日 ～ 令和7年10月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	157名	(回答者数) 98名
○従業者評価実施期間	令和7年10月17日 ～ 令和7年10月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	56名	(回答者数) 39名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【多職種の専門性を活かした支援体制】 ・ST、OT、保育士、社会福祉士、看護師などの専門職が在籍しており、身体面・生活面・言語面など多面的な視点から子どもを捉えた支援が行える体制がある。 ・専門職と療育職員が日常的に連携しながら、子ども一人ひとりの特性や発達に応じた支援を検討している。 ・専門的な視点を日々の療育活動やプログラムに取り入れながら支援を行っている。	・身体の使い方や生活面の支援についてはOT、言語面についてはSTなど、それぞれの専門職と連携しながら支援を行っている。 ・からだあそび等の療育プログラムを通して、専門職の視点を日々の活動に取り入れている。 ・怪我や体調面については看護師とすぐに連携し、迅速に対応できる体制を整えている。 ・保育士に子供の育ちにあわせた声掛け方法やあそびのアイデアを相談しながら支援に生かしている。	・OT、ST、保育士、社会福祉士など専門職同士の連携をさらに深め、支援の質の向上につなげていく。 ・専門職の視点を全職員が共有できるよう、研修やケース検討の機会を充実させる。 ・専門的な支援の意図やねらいについて、保護者にもより分かりやすく伝えていく。 ・地域の保育所・幼稚園等や関係機関との連携を図りながら移行支援にも取り組んでいく。
2	【こどもと保護者に寄り添った本人・家族支援】 ・こどもの様子や成長の姿を生活記録や送迎時のやり取り、電話連絡などを通して丁寧に共有している。 ・保護者の思いや悩みに共感的に寄り添いながら支援を行っている。 ・支援計画の作成においても保護者の意見や家庭での様子を丁寧に聞き取りながら作成している。	・日々の生活記録や送迎時の会話、電話連絡、面談などを通してこどもの様子を具体的に伝えている。 ・必要に応じて面談や電話等を行い、保護者とこどもの様子を共有している。 ・ペアレントプログラムや保護者同士の交流（お話会等）の機会を設け、家族支援にも取り組んでいる。	・職員によって対応の差が生じないよう、支援の考え方や対応方法について職員間の共有や研修を進めていく。 ・日々の関わりの中で、支援のねらいやこどもの成長の様子をより分かりやすく伝えていく。 ・保護者同士の交流や家族支援の機会についても継続的に検討していく。
3	【職員が連携しチームで支える支援体制】 ・職員同士がこどもの様子を共有しながらチームで支援を行う文化がある。 ・職員間で相談しやすい雰囲気があり、複数の視点でこどもを見る体制がある。 ・多くの保護者から「安心してこどもを預けられる」「こどもが安心して通えている」「担任じゃない職員でも名前を覚えていて、笑顔で挨拶してくれる」という声が寄せられている。	・振り返りや情報共有を通して、こどもの状況を職員全体で共有している。 ・送迎時や生活記録を通して、こどもの様子を丁寧に伝えている。 ・スキップ（親子療育）等を通して保護者にも支援の様子を見もらう機会を設けている。	・支援の意図やねらいを言語化し、職員全体で共有できるようにする。 ・ICTツールや記録を活用し、職員間の情報共有をさらに進める。 ・引き続き職員みんな（チーム）でこどもの様子をみる・説明できる体制づくりを進めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【施設環境の老朽化とスペースの課題】 ・建物の老朽化やトイレ・水回りの設備面について課題がある。 ・利用人数に対して空間が十分とは言えない場面がある。 ・施設の構造が現在の療育環境に十分対応できていない部分がある。	・市の施設であるため改修が容易ではない。 ・開設当初より利用定員が増えている。 ・療育施設として設計された建物ではない部分がある。 ・建物の構造が当時のまま残っている。	・市と連携しながら必要な修繕や改修について継続して要望を伝えていく。 ・限られた空間の中で部屋の使い方や活動内容を工夫していく。 ・安全点検や環境整備を継続し、安心して過ごせる環境づくりを行う。
2	【支援の共有や説明の分かりやすさ】 ・職員によって説明の分かりやすさや対応に差を感じるという声が一部ある。 ・支援のねらいや支援体制について、より具体的な説明を求める意見がある。 ・情報共有の方法について工夫が必要な場面がある。	・職員の経験年数や専門性の違い。 ・OJTが現場職員任せになり、十分に行っていない部分がある。 ・支援の意図や専門的な見立てが十分に共有されていない場合がある。	・研修や振り返りを通して支援の考え方や対応方法を職員間で共有する。 ・支援のねらいや子どもの育ちのポイントを保護者に分かりやすく説明する。 ・ケース検討や情報共有の機会を充実させる。
3	【業務量と情報発信の課題】 ・業務量が多く、職員が忙しく見える場面がある。 ・ICT活用や情報発信について改善の余地がある。 ・紙媒体での管理が多く業務負担が大きい。	・業務内容が多岐にわたる。 ・ICT活用が十分に進んでいない。	・業務の見直しやICT活用を進め、業務の効率化を図る。 ・コドモンやSNS等を活用した情報共有や発信を進める。 ・職員が子どもや保護者と向き合う時間を確保できる環境づくりの為、業務内容の見直しを進めていく。